

# 本県関係の答申物件概要

## 【重要文化財（建造物）指定】

○山中に優れた<sup>きょうち</sup>境地を創出する壮麗な堂舎群  
(近世以前／寺院)

名 称	<sup>えいへいじ</sup> 永平寺 19棟
員 数	<sup>ぶつでん</sup> 仏殿、 <sup>はつとう</sup> 法堂、 <sup>さんもん</sup> 山門、 <sup>ちゅうじゃくもん</sup> 中雀門、 <sup>そうどう</sup> 僧堂、 <sup>だいくいん</sup> 大庫院、 <sup>だいこうみょうぞう</sup> 大光明蔵、 <sup>かんにんりょう</sup> 監院寮、 <sup>かいろう</sup> 廻廊（5棟）、 <sup>じょうようでんほんでん</sup> 承陽殿本殿及び <sup>はいでん</sup> 拝殿、 <sup>じょうようもん</sup> 承陽門、 <sup>きょうぞう</sup> 経蔵、 <sup>まつだいらけびょうしょもん</sup> 松平家廟所門、 <sup>しゃりでん</sup> 舍利殿及び <sup>しどうでん</sup> 祠堂殿、 <sup>ちやくしもん</sup> 勅使門
所 在 地	<sup>よしだぐんえいへいじちょうしひ</sup> 吉田郡永平寺町志比
所 有 者	<sup>だいほんざんえいへいじ</sup> 宗教法人大本山永平寺
指 定 基 準	意匠的に優秀なもの、流派的又は地方的特色において顕著なもの
特徴と評価	<sup>どうげん</sup> 永平寺は <sup>かんげん</sup> 道元が寛元2年（1244）に <sup>そうとうしゅう</sup> 開創した曹洞宗の大本山寺院である。九頭竜川支流の永平寺川上流に位置し、谷沿いに広大な <sup>けいだい</sup> 境内を占める。創建以来たびたび <sup>がらん</sup> 伽藍を焼失し、現在の堂舎は近世から近代にかけて整えられた。山門から <sup>ちゅうじゃくもん</sup> 中雀門、 <sup>ぶつでん</sup> 仏殿、 <sup>はつとう</sup> 法堂を一列に並べ、 <sup>だいくいん</sup> 大庫院や <sup>そうどう</sup> 僧堂を <sup>かいろう</sup> 廻廊で連絡する。 <sup>じょうようでん</sup> 承陽殿は宗祖道元の <sup>びょうしょ</sup> 廟所である。各堂とも規模雄大で、内部空間、細部意匠も優れ、永平寺大工らの力量が発揮されている。山中の自然環境と一体となった優れた <sup>きょうち</sup> 境地を創出し、今なお禅宗伽藍の規範となる壮麗な堂舎群として価値が高い。
備 考	・永平寺町での重要文化財（建造物）指定は初めて。 ・県内の重要文化財（建造物）として、最多の棟数。 (参考：重文・中村家住宅（南越前町）10棟)

これまでの指定 (建造物関連) ・ 福井県指定有形文化財「永平寺中雀門」、「永平寺山門」(昭和54年)

永平寺の文化財 (国指定) 【美術工芸品】  
・ 国宝「普勸坐禅儀 附 普勸坐禅儀撰述記」(昭和27年)  
・ 重文「紙本墨書 高祖嗣書」(明治33年)  
・ 重文「紙本墨書 後円融院宸翰」(明治33年)  
・ 重文「紙本墨書 孤雲懷奘筆 正法眼蔵仏性第三」(昭和16年)  
・ 重文「金銀絵料紙墨書 明全戒牒」(昭和16年)  
・ 重文「銅鐘」(大正10年)

建造物調査  
・ 『近世社寺建築緊急調査報告書』(福井県教育委員会、1981)  
・ 『福井県の近代和風建築』(福井県教育委員会、2012)  
・ 『永平寺建造物調査報告書』(大本山永平寺、2018)



永平寺位置図



永平寺配置図



永平寺主要伽藍  
(中央奥の建物が法堂、手前の建物が山門)

(提供 永平寺)

## 永平寺の伽藍と建造物について

永平寺は、寛元2年（1244）道元によって現在地に開創された。九頭竜川支流の永平寺川上流に位置し、枝谷沿いの南北に長い緩やかな斜面に南面して伽藍が配置される。境内は階段状に築造され、南から山門、中雀門、仏殿、法堂が直線状に配され中軸をなし、中雀門の西に僧堂、東に大庫院、また山門の西に東司、東に浴室を相対して建て、諸堂を廻廊でつなぐ。これらは七堂伽藍とも呼ばれ、禅宗寺院の基本的な伽藍配置を呈する。また、永平寺は大本山であることから、七堂伽藍の周囲にも諸堂が並び、法堂南西の高台に宗祖道元などを祀る承陽殿、南東に大光明蔵、山門東方高台には経蔵や松平家廟所、さらに山門南西には勅使門や舍利殿と祠堂殿などを配する。このような傾斜地に建つ伽藍や建物配置は、道元が修行した南宋の天童寺などに通じ、永平寺の特徴といえる。

永平寺は、創建以来度々火災により建物を焼失したが、遠忌などの機会を捉えて再建されてきた。現在みられる建物は近世から近代にかけて整えられたもので、特に近代には、明治35年（1902）の高祖大師（道元禅師）650回大遠忌、昭和5年（1930）の二祖国師（懷奘禅師）650回大遠忌を契機として、大規模に整備された。

永平寺の建造物は、門前の大工集団・永平寺大工が携わり、高い技量を発揮した。近代になると、愛知県などの寺院や檀家の寄進による建造物の建築時には名古屋や京都などの設計者や大工などが関与した。建築様式は、禅宗様<sup>ぜんしゅうよう</sup>を基調とする。

\*鎌倉時代に禅宗とともに伝わった建築様式で、全体に木割が細く、組物を多く配し、花頭窓を用いるなど装飾的な造作が特徴。軒の反りも強い。



永平寺主要伽藍（提供 永平寺）  
（手前から中雀門、仏殿、法堂）

## 各建造物について（※規模等は P.8 一覧参照）

### ① 仏殿 ぶつでん

仏殿は釈迦如来等の本尊を祀る。大檀那・岩崎彌之助などの寄進を受け、名古屋や永平寺の大工を中心に、明治35年(1902)に完成した。重厚で均整の取れた外観と広大な内部空間をもつ本格禅宗様仏殿。



（※以下写真全て 提供 永平寺）

### ② 法堂 ほつどう

法堂は住持が法を説く道場である。建物は、永平寺大工によって天保13年(1842)に建てられた。380畳を超える広大な内部空間をもち、曹洞宗寺院における近世の法堂として最大規模を誇る。



### ③ 山門 さんもん

七堂伽藍の入口に位置する門。延享4年(1747)建築。永平寺大工の手による本格的な禅宗様大型二重門で、多種多様な彫刻がみられるなど独自の細部を備える。



### ④ 中雀門 ちゅうじゃくもん

大庫院と僧堂をつなぐ廻廊中央に位置する二重門。仏殿正面にあり、禅宗様を基調とし、彫刻を多用した装飾豊かな門。嘉永5年(1852)頃の建築。



### ⑤ 僧堂 そうどう

僧堂は修行の根本道場で、坐禅、食事、就寝などを行う。建物は永平寺大工により、明治34年(1901)に建てられた。僧堂西側には古教照心の道場である衆寮しゅうりょうが接続し、今回僧堂と併せて指定となる。



## ⑥ だいくいん 大庫院

庫裏や迎賓施設の機能を備えた地下 1 階、地上 3 階建の大規模建築。昭和 4 年（1929）の建築で、設計・施工は武生の師田組。鉄筋コンクリート造と木造を合わせ、洋風小屋組を用いるなど、近代技術を駆使。



## ⑦ だいこうみょうぞう 大光明蔵

大光明蔵は住持が説法を行い、また賓客との対面などを行う。126 畳の大広間に上段を備え、広大な空間と高い格式を体現した優美な建築である。愛知県の寺院と檀信徒が寄進し、工事も愛知県関係者が中心となった。昭和 4 年（1929）建築。



## ⑧ かんにんりょう 監院寮

監院寮は寺務全般を統括する監院の居所で、大庫院と大光明蔵の間に建つ。昭和 4 年（1929）の建築。



## ⑨～⑬ かいろう 廻廊（5 棟）

廻廊は諸堂をつなぐ廊下で、永平寺では江戸時代の絵図でも廻廊が確認でき、幾度も大火を経ながら今なお継承される。今回指定される廻廊は、昭和 5 年（1930）頃の建築。



## ⑭ しょうようでんほんでん 承陽殿本殿及び はいでん 拝殿

主要伽藍西の高台に位置し、宗祖道元禅師などを祀る。本殿、拝殿とも明治 14 年（1881）永平寺大工による建築で、繊細な彫刻を多用し、荘厳な廟所である。



⑮ <sup>じょうようもん</sup>承陽門

承陽殿本殿及び拝殿の門。本殿、拝殿と同様に、明治14年（1881）の建築で、意匠的にも繊細な彫刻で飾られる。



⑯ <sup>きょうぞう</sup>経蔵

経蔵は山門東方の高台に立ち、<sup>りんぞう</sup>輪蔵を納める。嘉永4年（1851）頃の建築。



⑰ <sup>びょうしよもん</sup>松平家廟所門

山門東方の高台に松平家廟所が立つ。廟所門は、廟所がつくられた正保4年（1647）年頃の建築で、福井藩大工の手によるとみられる。境内で最古の建築。



⑱ <sup>しゃりでん</sup>舍利殿及び<sup>しどうでん</sup>祠堂殿

舍利殿及び祠堂殿は、檀信徒の位牌を安置し、法要を行うための建物。舍利殿は江戸末期、祠堂殿は大正15年（1926）の建築。



⑲ <sup>ちよくしもん</sup>勅使門

勅使門は住持の晋山式や、皇室など特別な来賓の上山時などに用いる正門。多様な彫刻や金具により細部まで装飾される。天保15年（1844）頃の建築。



## 永平寺指定建造物一覧

	建造物	建築年代／根拠	規模・構造形式
1	ぶつでん 仏殿	明治35年(1902) ／棟札	桁行18.4m、梁間17.2m、一重もこし付、入母屋造、本瓦葺
2	ほつとう 法堂	天保13年(1842) ／棟札	桁行32.2m、梁間23.2m、入母屋造、棧瓦葺一部銅板葺 附・棟札1枚
3	さんもん 山門	延享4年(1747) ／棟札	桁行16.6m、梁間9.1m、五間三戸二階二重門、入母屋造、銅板葺 附・棟札1枚
4	ちゅうじやくもん 中雀門	嘉永5年(1852)頃 ／文書	桁行8.3m、梁間2.8m、一間一戸二重門、入母屋造、前後軒唐破風付、銅板葺
5	そうどう 僧堂	明治34年(1901) ／文書	僧堂：桁行26.6m、梁間21.1m、一重、入母屋造、棧瓦葺一部銅板葺、西面衆寮附属 衆寮：桁行18.0m、梁間14.1m、一重、両下造、銅板葺
6	だいくいん 大庫院	昭和4年(1929) ／文書	桁行41.6m、梁間13.4m、鉄筋コンクリート造地下1階、木造3階建、入母屋造、棧瓦葺
7	だいこうみょうぞう 大光明蔵	昭和4年(1929) ／棟札	桁行23.6m、梁間19.0m、一重、入母屋造、棧瓦葺、向拝付
8	かんにんりょう 監院寮	昭和4年(1929) ／文書	桁行18.9m、梁間5.8m、西面入母屋造、東面寄棟造、棧瓦葺
9～13	かいろう 廻廊5棟		
(1)	山門東方廻廊	昭和5年(1930)頃 ／文書	延長38.1m、切妻造、棧瓦葺
(2)	山門西方廻廊	〃	延長66.1m、切妻造、棧瓦葺
(3)	中雀門東方廻廊	〃	延長21.0m、切妻造、棧瓦葺
(4)	中雀門西方廻廊	〃	延長14.9m、切妻造、棧瓦葺
(5)	仏殿東方廻廊	〃	延長60.5m、切妻造、棧瓦葺
14	じょうようでんほんでん 承陽殿本殿及び はいでん 拝殿	本殿・拝殿： 明治14年(1881) ／文書	本殿：桁行6.5m、梁間7.5m、土蔵造、宝形造、銅板葺 拝殿：桁行11.8m、梁間11.6m、入母屋造、棧瓦葺、向拝付
15	じょうようもん 承陽門	明治14年(1881) ／文書	桁行3.3m、梁間2.9m、一間一戸向唐門、銅板葺
16	きょうぞう 経蔵	嘉永4年(1851)頃 ／文書	桁行8.4m、梁間8.4m、一重もこし付、宝形造、向拝付、銅板葺
17	まつだいらけびょうしょもん 松平家廟所門	正保4年(1647)頃	桁行3.6m、梁間2.5m、四脚門、切妻造、銅板葺
18	しゃりでん 舍利殿及び しどうでん 祠堂殿	舍利殿：江戸末期 祠堂殿：大正15年 (1926)／棟札	舍利殿：桁行8.6m、梁間9.4m、一重もこし付、宝形造、銅板葺 祠堂殿：桁行24.0m、梁間15.9m、入母屋造、向拝付、銅板葺 附・棟札1枚
19	ちやくしもん 勅使門	天保15年(1844)頃	桁行5.1m、梁間3.8m、四脚門、切妻造、前後軒唐破風付、銅板葺、左右袖塀及び築地塀付